

唐丹町の考古学(2)

縄文時代の唐丹町① 小白浜遺跡

釜石市 森 一 欽



中央部に位置し、南西の山

手を「伝城」、海岸部を「小

白浜」、北西の山手を「二本

梨」と三地域に区別されて

おり、小白浜遺跡は二本梨

に所在します。地形的には

松倉山山地の南東部に位置

し、篠倉山から唐丹湾に注

ぐ二本梨沢により形成され

た緩斜面上に立地します。

海岸線からの距離は約五〇

〇mで遺跡は標高五〇mか

ら一〇〇mに分布します。

平成十六年に、釜石市水

道事業所の「小白浜簡易水

道施設整備事業」の中で、

浄水池及び配水池建設の予

定地が遺跡範囲であるため、

消滅する遺跡を記録保存す

るということに発掘調査を

行いました。

発掘調査では、縄文時代

早期後半頃の炉穴(穴の中

には炭の層があり、放射性

炭素C14測定では紀元前五

五〇〇年頃と出ました。)と、

縄文時代後期の竪穴住居と

考えられる遺構が確認され、

縄文時代早期後半〜前期前

葉(紀元前五五〇〇年〜四

〇〇〇年頃)の土器群や縄

文時代中期中葉〜後葉(紀

元前二五〇〇〜二〇〇〇年

頃)の土器、後期前半から

中葉の土器(紀元前一五〇

〇年頃)の土器や頁岩製の

剥片石器(石匙など)が出

土しています。

国道四十五号線沿いでは、

昭和四十年代の四十五号線

の拡張工事や、それに伴う

住宅の建替えなどによって

土器や石器(石皿)が発見されています。この中には、中期中葉から後期中葉の土器(紀元前二〇〇〇年〜一五〇〇年頃)の土器がほとんどで、前期(二点)・晩期(一点)が少量出土しているに過ぎません。

小白浜遺跡では縄文時代の各時期の土器が出土していますが、各時期の土器の出土地点が違っていていることを今後もっと詳しく調べていけば、小白浜遺跡(二本梨地区)の土地利用状況が分かってくるかもしれません。

今回は唐丹町の遺跡について総合的に概略を述べました。今回からは、各遺跡の概要について簡単にまとめていこうと思います。その第一回目として小白浜遺跡を取り上げたいと思います。

小白浜遺跡は、岩手県釜石市唐丹町字小白浜に所在し、三陸鉄道唐丹駅の北約一一〇〇mに位置します。字小白浜は唐丹地区の沿岸

